



園だより

# にじ

香川大学教育学部附属幼稚園

2016年5月10日

ゴールデン・ウィークを過ぎ、子どもたちの心の中は、何でいっぱいでしょう。家族と過ごすひととき、何気ないふれあいの中で楽しさや嬉しさを味わうこともあるでしょう。また、お休みならではの体験をして、新たなことにわくわくした思いもあるかもしれません。はりきって、チャレンジしてみた体験もあったことでしょう。

子どもにとっての時間・・・その瞬間のかけがえのないものです。大人ももちろん同じ瞬間・時間なのですが、どうやら、子どもたちの心と体、脳は、一つ一つ、一人一人の体験を感じ考えながら、そっと溜め込んでいくようです。大人になり(大きくなり)、ぼんやりとだけれども、覚えていたり感覚的に知っていたりという体験をされた方もいるでしょう。子どもは、一日一日を自分が楽しく、元気に生きていくことをまず一番に思っているのです。ですから、子どもの「今」の体験は、未来に続くとても大切な一歩だと、私は思っています。(うれしいことも、楽しいことも、悲しくなることも、怒りでいっぱいになることも・・・、次につながるものとして、生かされますように)

## ～自分のことは、自分で・・・～

### 子どもの中にある力と自信

「自分で！」とか、「するの！」とか、大人本位に手伝うと泣いたり怒ったりいること、乳幼児期にもありますね。小さい人ながらも、「自分」というものが出てきている証だと思います。自分でするといっても、すべてを彼(彼女)なりに行うことは、難しいかも知れません。しかしながら、「自分で！」という心もちには、心の拍手を送って、さりげない手助け(必要と思われる分だけ)を考えていくのも大切に思います。・・・家庭では、生活時間もあり、難しいこともあるかも知れませんが、心を感じ、できるところは、「待つ」「試す時間をつくる」ことも考えてあげてください。きっと、「自分で！」と意気込むことなく、自然に自分のこととして、行うことができるようになっていきます。

「おはよう」と元気な声とともに、ちょっと重い大事なお弁当の入った袋を肩からかけて、やってくる頼もしい顔。大きくなっている自分を実感している、そう思います。こんなふうに、幼稚園のカバン、水筒や弁当など、子どもにとって、とても大事な「ぼく(わたし)幼稚園の子だよ」という喜びを表すものであってほしいと思います。小さなお友達・赤ちゃんは、まだ同じように背負うことも持つことも難しい。けれども、幼稚園の子になった自分は大きいんだよという気持ちでぜひ自分でもつ気持ちを高めてほしいと思います。出し入れや、片づけの慣れないところは、毎日先生や友達としている中で覚え、前にも書いた通り自分のこととして、ごくごく自然になされるようになります。

自分でしてみられることをちゃんと子どもに任せること・・・これもお家の方の♡愛♡だと思います。また、自分のものを大切にすることにもなります。「できる」ことをめざすのではなく、一つ一つ自分でやっていけるようになる過程を一緒に見守っていきませんか。



## 子どもたちの姿から・・・



### 「こいのぼりの魅力」

園庭に泳ぐこいのぼり。子どもにとって、「大きい」「かっこいい」「空泳ぎたい」「強そう」「気持ちいいだろうな」など、いろいろな思いをもっているでしょう。毎朝、こいのぼりを揚げる手助けをしてくれる子どもたちがいます。こいのぼりの箱を三輪車にバランスよく積み、ポールの下へ。そして、ポールの下でロープにひっかける私の手元を見ながら、「はい、これ」「引っ張る?」「早く揚げてよ」と、注文とアドバイスが入り混じります。こいのぼりを泳がせることへの責任と自信を感じているかのよう。実際、自分たちでだけすることは、難しいのですが、よくよく見ながら、自分もいつかできるよ・・・と、目を輝かせている姿がすてきだと思いました。

連休明けのある日、こいのぼりメンバーが集まって、箱を運んでいます。しかしながら、「今日は、雨が降りそうだね・・・」の私の言葉に、いろいろ考えたのでしょう。なんと、藤棚の下に、運び出し、そして、そこに、つなぎとめようとしているのです。4人5人が、あちこちもっては、紐を結びつけようとしているのです。しばらく様子を見ながら、考えている姿を頼もしく思っていました。藤棚に、結び泳がせたい・・・、そんな気持ちをかなえたいけれども、長い長いこいのぼりは、土埃の中に横たわっています。

子どもの願い どうしたものかなと考え、「ねえ、みんなでもってあげたら、泳げそうだと思うのだけれど・・・。」と問いかけてみました。黒のこいのぼりを手に持ちながら、「わ、ホントだ!」と、こいのぼりの体をそれぞれ手につかんで、ぐるり一周、園内を走りました。「わー、泳ぐ～」と楽しげなこいのぼりの声のよう(子どもの声)を響かせながら、走りました。きっと、黒いこいのぼりは、子どもたちの思いにわくわくしたことでしょう。子どもたちも、なんだか楽しそうなこいのぼり(電車)に連なることで、わくわくしたのではないかなと思います。ふっと、楽しいことを心に感じ合える場や時があることを願います。

その後、雨にも負けないこいのぼりを大きなビニール袋で作りました。

「～したらいい」「～しよう」と、口々に言いながら、「そうだね」とか「ふうん」と受け入れていくけれど、自分のしたいことにまっすぐな4歳児さんたちの「今」。自分の気に入った模様をこいのぼりのあちこちに描き入れ、一匹のこいのぼりとなりました。

園にこいのぼりの仲間入りです。

子どもたちの心も、元気に泳ぎ、楽しんでほしいものです。



### 子どもの遊びって?

#### 『学びの物語』(ひとなる書房)

大宮勇雄先生(福島大学人間発達文化類教授)著

子どもの学ぶ力を見つめ、考えられている実践研究者でもある大宮先生です。

著書の中に子どもを見つめる目として、ヒントになることが書かれています。キーワードを抜粋してみました。子どもたちへの目が、また一つ広がったり違ったりしていくことを願い、私たちも保育に携わっています。

本文より

- \* 関心から熱中へ、そしてチャレンジが生まれる
- \* なにげない行動にも意味があり、成長がある
- \* 子どもは自分で困難を選び、自分で課す



こんな姿から

わ、なんだろう。  
おもしろそうだな。  
不思議だな。知りたいな

おもしろいぞ。  
～してみよう。  
あっ、～なのかな・・・

?だ・・・なぜなぜ。  
うまくいかない。(葛藤・しんどさ)  
でも、やってみたい。  
やってみられるよ。きっと。  
あっ、そうか。